

梟首の島 (きょうしゅのしま) (上・下) 坂東眞砂子/著



今年亡くなられた本県出身の直木賞作家、坂東眞砂子氏。追悼の意味も込めて、数ある代表作の中からおすすめするのが「梟首の島」。

高知県を中心の自由民権運動が舞台。

6月に見ごろを迎える花といえば一そう、アジサイ。「野市あじさい街道」で昨年、路面の状態が悪く、車いすの方が通れなかったと聞き、整備状況の確認がてら街道へ行ってきました。平日だったので、そこには、ゆっくり散策する人、所々に置かれたベンチに腰を下ろし、じっくり花を楽しむ人の光景がありました。今から約25年前、不法投棄の絶えなかった土手に岡田順一さん(野市町父養寺)がアジサイを植えたことが始まり。その後、横田博さん(同町西佐古)が加わったことで、全長1.2kmの街道となりまして。アジサイの名所となった上井川の土手は、ボランティアの方々のおかげで、毎年、色とりどりのアジサイを楽しむことができている。ありがとうございます。(関連28ページ)

市長談話室

20

地区懇談会と住民自治

皆さま、地区懇談会へご来場いただき、ありがとうございました。地区懇談会は、市長就任時に掲げた5つの公約の1つで、今回が3回目の開催となります。日常生活での地域の課題や政策提言をざっくばらんに出していただくことで、地域と行政が思いを共有することができます。あわせて、市の施策の進捗状況や重点施策の説明をさせていただきます。まちづくりについて共通認識を図ることができます。そんな地区懇談会について、今回感じたことをお伝えします。(関連25～26ページ)

住民自治へ一歩前進

◆懇談会の変化
4月15日から5月21日にかけて17カ所で開催した地区懇談会は、昨年より197人多いのべ886人の参加をいただきました。

今回の懇談会を総体的にみて感じましたのは、市民の方からの意見が活発であったことと、懇談会終了後、私を含め、担当職員と直接話をする場面が多く見られたことです。そして会場には、新人議員さんを筆頭に、多くの議員さんの姿が見られました。中

には、全会場出席くださった方もいらつやいます。

◆広がりを見せる懇談会

「今度は青年の集まりで懇談会をやってほしい」とや沿岸のまちづくり、庁舎周辺の土地利用計画など、課題を絞った懇談会の開催を希望する声、もつと小さい地域での開催希望などのお話をいただきました。早速、開催の希望があった夜須町羽尾地区で6月18日に懇談会を行いました。山間

◆今後の住民自治への期待

住民活動には、①抵抗型②要望型③政策提言型④自主運営型の4つがあり、今回の懇談会は、政策提言型が多かったように思います。地域に入り課題をお聞きすることで、私自身状況把握ができましたし、職員もそれぞれの地域の課題を共有することができました。今後も、地域へ職員が向く工夫をしていきたいと思っています。

「住民自治の確立」が、少しは前進した今回の地区懇談会だと思いましたが、多くの市民の皆さま、ご来場ありがとうございました。



清藤真司

春の叙勳

4月29日(火)春の叙勳及び褒章受章者が発令され、香南市から西村美奈子さん(野市町)が藍綬褒章を受章されました。

藍綬褒章

調停委員

西村美奈子さん (野市町)



昭和63年から家事調停委員として27年間、離婚や遺産の相続など、家庭内での紛争の解決に尽力されました。現在は平成20年から任命されている民事調停委員として、さまざまな紛争の解決をはかり、円満な解決を目指して、日々取り組まれています。

Hot News Now

PASHA まちの話題

Topics

や 高知県産業振興計画シンポジウム すらぎ市、飛躍への挑戦

5月23日(金)赤岡町弁天座で、高知県産業振興計画シンポジウムが開催されました。これは、官民協働により産業振興を進める同計画と、その取り組みを広く知ってもらうために、県が主催したもので、香南市からはやすらぎ市が参加。他市の2組と一緒に取り組み発表とパネルディスカッションが行われました。やすらぎ市代表理事(当時)森岡康博さんが壇上に立ち、やすらぎ市の現状と課題、独自の加工施設を整備したことを発表しました。



▲やすらぎ市を中心とした地域全体の活性化策が発表されました

鳥 香我美町徳王子若一王子宮行事「鳥喰い」 喰いの行事を学んでW杯を応援しよう

5月28日(水)香我美町徳王子の若一王子宮で香我美町スポーツ少年団サッカー部の5、6年生26人が、サッカー日本代表のシンボルマーク「八咫鳥」ゆかりの鳥喰いの行事を学習しました。鳥喰いの行事は紀州熊野から飛んできた3本足の八咫鳥に、本殿の軒先に供えた餅を食べてもらう行事で、700年前から続いています。この日は市文化財センターの職員らが、日本サッカー協会のシンボルとなった経過説明や、鳥喰いを紹介。その後、日本代表の活躍を願って八咫鳥の碑に向かって応援メッセージを送りました。



▲日本サッカー協会の旗を掲げて応援メッセージを送りました

色 のいちあじさい街道～あじさいのいち～ とりどりのあじさいに囲まれて

野市町西佐古から父養寺にかけて、毎年地元有志が大切に育てているあじさい約19,000株が今年も見ごろを迎え、6月15日(日)に「あじさいのいち」のイベントが開催されました。当日は上天気恵まれ、気温は汗ばむほど。市内外から訪れた大勢の来場者は、ベンチに腰を掛けたりゆっくり散策しながら、「きれいやねえ」と色とりどりのあじさいを写真に収めたり、つくたての餅やあじさいの鉢などを買い求めていました。



▲地元の人が育てたあじさいに来場者もうっとり